

大地のひまわり道路。子ども達の2学期開始にまさに花を添えるように、ドンピシャリで満開となって子ども達を迎えてくれました。夏休みの天候の不安定さを吹き飛ばすように、ここだけ夏満開のエネルギーです。夏休み中、あれよあれよという間に背丈が伸びて行き、いつのまにか大きな大輪を咲かせていました。まさに、夏休み中の子どもの成長のようですね。まあ、根元の雑草の伸びも凄かったです。

雨の多かった夏のお陰で、今夏は、例年の2倍以上の草刈り回数でした。しかも、昨年よりも面積が2倍になったので、合計4倍分ということでしょうか。活発に動いた夏休み、大地にいる時は、青ちゃんは、草刈り、ノンタン母さんは、畑作業がメインになっていたのも、2人とも真っ黒に日焼けしました。海には行っていません。

それにしても、梅雨のような夏休みでしたね。からっと夏空が広がった夏・夏・夏！！という日は、どれだけあったのでしょうか。しかし、逆にその間のわずかな好天の日が貴重な思い出になっています。まさに希少価値だった好天。待ち望んだ太陽、青空、一瞬の夕焼け、星空、朝日、ブロッケン現象、歓声、まさにドラマです！！

今夏も精力的に山に登りましたが、もちろん雨の日もありましたが、必ずどこかで晴れてくれて、ドラマチックな世界、光景を見せてくれました。予想と期待が無かっただけに、逆に感動が大きかったので、印象に残っているのでしょうか。雨音を聞きながらテントで眠っていると、急に静かになり外を覗いてみると、満点の星だったり、急に風が吹いてきて雲が吹き飛び、真っ青な空と険しい山肌の頂上が見えたり。夕食後、雨が降ってきてテントへ逃げ込んだ寝るしかないかと思っていたら、外で歓声！？ 出てみたら見事な夕焼け。続いてブロッケン現象・・・などなど数え切れない山岳ドラマを体験させてもらいました。天候不順が、逆に劇的なドラマを産んだようです。安定よりも刺激的な日々、まさに熱い熱い夏でした。さて、2学期。根子岳登山という熱い行事が天候に恵まれてスタート出来ました。熱い熱い大地の秋の始まりです！！



【父は理想 母は自然】

動物、特に犬を育てるときの注意ポイントとして、犬は自分の分相応の地位を知り分相応の振る舞いをするようになるので、家族の中での位置をしっかりとさせないと、ただ吠えるだけのわがまま犬になってしまうと聞いた事があります。

飼い主の言うことを聞かないわがまま犬は、飼い主が自由放任でルールを教えたことが原因であり、犬の意志を尊重しその要求を何でも聞いてやると、犬は自分が主人だと思い自由意志を持ち、勝手に所かまわず要求をして、やたらに吠えるようになるということです。例えば、飼い主がへんに平等主義だったり、優しく散歩時に「犬だつて行きたい方に行く権利がある」などと考え犬に付いていく人だと、犬は、自分が主人だと思い、自分がしたいことを吠えて要求し、それが通るまで吠え続けるわがまま犬になってしまうらしい。また、犬の要求に応える事ができなかった時に犬に「ごめんごめん」と謝る事もあるらしい。「わがまま犬」は家族の中に、秩序やルールがあることを理解出来ない。物わかりのよい主人が犬の「自主性」を重んじ、犬と対等に接した結果、犬は「自主性」を持った犬になったが、「よい意志」を持った犬にはならないと。

青ちゃんは、若い時に、子育てはわがまま犬を育てるようにしてはならないとある本から学びました。「友達のような父親」「物わかりのよい父親」にはなるな。それらは、こどもに嫌われないために、上下関係を意識的に捨て、子どもに迎合、媚びを売り、子どものわがままな意志を尊重し、本当はそうして欲しくないのに、その真の価値観を押しつけようとしぬい親だと。子どもの自主性を重んじ、強制はしなくて自由放任に育てると、「自由な意志」は持つが「良い意志」を持つ事が出来ない。

そして、冒頭の犬の育て方の話がありました。子どもを育てるのも犬と同じ。父親がしっかり中心にいないと、子どもは自分が中心（王様お姫様）の感じを持ち続け、全体のなかでの分相応な位置を自覚出来ない。友達のような親に育てられると、人間社会にはルールやマナー、秩序があるという事が理解できない人間になり、自分の意志が全てで、それが通らなないと、すぐに泣いたりわめいたり怒ったりする。そうすると、「ごめんごめん」と親が平謝りして、秩序やマナーよりも子どもの機嫌を優先してしまう。そして、「子どもの自主性、主体性、意志を尊重していますから、押しつけはしません」と答える。自主性とは、あらかじめ、その前にきちんとした価値観（社会のルールや公共マナー、秩序）があって初めて持ちうるものだと教えてもらいました。

更に、善悪の判断が出来ない人間が、これからどんどん増えていくだろうと予測してありました。遅刻、不登校、いじめ、無気力、自分勝手・・・

善悪の判断の基準が「人に迷惑をかけない」「他人を傷つけない」という事が中心となり、それが無ければ何をやっても良いという風潮になっていくだろうと。挨拶をしない、遅刻をしない、居眠りをしない、スマホをいじらないなど「挨拶をしなくても遅刻をしても誰にも迷惑をかけていません」と言う人が増えていくだろうと。

そこには礼儀やマナーなどの秩序、例えば「美しい」「他人に不快感を与えない」などという基準は考えられないと言うことでしょう。

凜という美しさや清楚で竹で割ったような研ぎ澄まされた雰囲気、京都のお寺や庭園、茶道の世界で見られる雰囲気。会議や行事も、時間通りに揃い始める時は、気持ちが良く締まりますね。だらだらと遅刻しながら始める時は、締まらなく何よりも、気持ちが凜と美しくありません。大地の庭や山林などの自然も、草が伸び放題でも、誰にも迷惑も傷つけもしないで放っておいても、やはりそれは美しくありません。そこには、個人の自由意志と言うよりも、人間社会の秩序、ルールが最優先されているからだと思います。だから、凜とした静寂に包まれた寺院などへ行くと、気持ちがいいのだと思います。そこには、人間が生きていく上での秩序という価値が感じられるからでしょう。

話は戻りますが「全て子どもの意志に任せる、選択に任せる」という自由放任教育。逆にその任されるに足るだけの意志の力や選択の力、すなわちその価値観や選択基準がどれだけ事前に付けてもらっているのか、まずは、それが先決であり、そのために特に父親の努力導きが必要なのに、その努力が面倒だから、子どもに「ごめんごめん」とすぐに謝り、子どもの意志を尊重すると言って逃げてしまう事も多い。結果、子どもは、任されるに足るだけの意志力も秩序マナー維持の判断力、予備知識もなく、ちょっとした壁にあたったりやマナーを注意されると、問題行動に陥り易い。

秩序やけじめを教える厳しい父親を演じる事は「しんどい」（子どもとの戦いや嫌われるので）から、無理をするよりありのままに生きる、弱さ、だらしなさを正直にさらけ出し、自分の生き様を見せるのが父の理想だし、しかも楽で自然体だという風潮。しかし、敢えて言いたい青ちゃんです。父親は、自然ではなく理想。父親は無理をしなければ務まらない存在であり、もともとしんどい宿命を持ってうまれてきたもの。「しんどさ」に耐え、理想を追求するのでなければ、存在価値意識がなくなるのが「父親」なのです。

それがあったから、皆 根子岳という山に、汗をかきながら登れたのだと確信しています。（母親にも）